

プリオン病の医療連携に関する問題点と V180I-129M gCJD の SPECT 所見に関する検討

研究分担者：犬塚 貴 岐阜大学大学院医学系研究科 神経内科・老年学分野

研究協力者：林 祐一 岐阜大学医学部附属病院 神経内科・老年内科

研究要旨

当院に入院したプリオン病患者連続 17 名を対象に医療連携に関する問題点を後ろ向きに調査を行った。自宅へ退院できる患者の多くは緩徐進行型の症例で、かかりつけ医の選定は比較的容易である一方、典型的な急速進行型の症例では、診断後の転院先の確保に難渋する例が多かった。転院を要した患者のうち半数で転院を拒否されていた。転院を拒否される理由として、医療スタッフの感染に対する理解不足や不安があったが、感染対策マニュアルの送付ならびに医療スタッフ向けの出前講演会の開催が医療スタッフの不安解消に有益であった。また、特定の精神科単科病院や療養型病院への転院ルート構築も重要であると考えた。

また、V180I gCJD-129M 3 例を経時的に SPECT 所見を検討したところ、全例で発症から 20～23 ヶ月後のほぼ寝たきり状態にあっても後頭葉と小脳の血流が保たれていた。これは V180I-129M gCJD の SPECT 所見の特徴ではないかと考えた。

A. 研究目的

プリオン病診断後の医療連携に関する問題点を明らかにすること、V180I gCJD-129M の SPECT 所見の特徴に関して明らかにすることを目的に本研究を行った。

B. 研究方法

2006 年から 2014 年までの 9 年間に当院に入院した CJD 患者 17 名の退院支援に関する医療連携上の問題点や、その問題点を解決した方法について後ろ向きに調査した。また、当該期間に当院に入院した V180I gCJD 患者のうち、MRI 及び SPECT 検査を経時的に観察できた 3 例の SPECT 所見の変化について後ろ向きに調査した。

(倫理面への配慮)

個人の特定につながる住所、生年月日、名前を削除し、研究に用いた。

C. 研究結果

プリオン病と診断された患者 17 名の退院後の療養先は、自宅が 9 例、転院が 7 名、転院不能 1 例であった。自宅退院した患者の多くは、V180I gCJD や sCJD 緩徐進行型で、かかりつけ医の選定は容易であった。一方、転院を要した患者の半数で転院を拒否された。医療スタッフの感染に対する理解不足や不安によるものであったが、感染対策マニュアルのコピーを送付し、必要に応じて出前講演会を転院依頼先病院で開催したところ連携が可能となった。

V180I-129M gCJD の 3 例の SPECT 所見を経時的に観察したところ、ほぼ寝たきり状態にあたる発症から 20～23 ヶ月後でも後頭葉と小脳の血流が保たれていた。

D. 考察

感染対策マニュアルの送付ならびに医療スタッフ向けの出前講演会の開催が医療スタッフの不安解消に有益であると考えた。特定の精神科単科病院や療養型病院への転院ルート of 構築も有益であった。

V180I-129M gCJD の症例では、MM1 sCJD と比較して視覚異常や小脳失調の出現頻度は少ないと報告されている。病理学的には長期例においても後頭葉、小脳の病変は軽度で比較的保たれる傾向がある。ほぼ寝たきり状態にあっても後頭葉と小脳の血流が保たれていることとの関連が示唆される。

E. 結論

医療連携を行うに際し、感染対策マニュアルの送付ならびに出前講演会が有効であった。理解ある特定の病院への転院ルート of 構築も重要である。

ほぼ寝たきり状態にあっても後頭葉と小脳の血流が保たれていたことは、V180I-129M gCJD の SPECT 所見の特徴ではないかと考えた。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表 (2014/4/1~2016/3/31 発表)

1. 論文発表

1) Hayashi Y, Iwasaki Y, Yoshikura N, Asano T, Hatano T, Tatsumi S, Satoh K, Kimura A, Kitamoto T, Yoshida M, Inuzuka T. Decreased regional cerebral blood flow in the bilateral thalami and medulla oblongata determined by an easy Z-score (eZIS) analysis of ^{99m}Tc-ECD-SPECT images in a case of MM2-thalamic-type sporadic Creutzfeldt-Jakob disease. J Neurol Sci

2015; 358: 447-452.

2. 学会発表 (2014/4/1~2016/3/31 発表)

- 1) Hayashi Y, Yamada M, Satoh K, Koumura A, Kimura A, Inuzuka T. Clinical findings in a probable case of MM2 cortical type sporadic Creutzfeldt-Jakob disease with anti-NAE antibody. APPS 2014. Jeju, Korea, 2014/7/6-7
- 2) Sanjo N, Higuma M, Hizume M, Frukawa F, Nakamura Y, Kimamoto T, Hamaguchi T, Moriwaka F, Aoki M, Tanaka F, Nishizawa M, Takeda M, Inuzuka T, Abe K, Sato K, Murai H, Murayama S, Satoh K, Harada M, Uyama N, Fujita K, Saito N, Takumi I, Tsukamoto T, Yamada M, Mizusawa H. APPS 2014. Jeju, Korea, 2014/7/6-7
- 3) Hayashi Y, Yoshikura N, Takekoshi A, Harada N, Yamada M, Kimura A, Inuzuka T. SPECT findings during end-stage V180I gCJD. APPS 2015. Kanazawa, Japan, 2015/9/4.
- 4) 林 祐一、堀田みゆき、安西将大、竹腰 顕、吉倉延亮、原田斉子、香村彰宏、木村暁夫、犬塚 貴. クロイツフェルト・ヤコブ病患者の医療連携に関する検討. 日本神経学会 学術大会. 新潟, 2015/5/20.
- 5) 林 祐一、堀田みゆき、山田 恵、吉倉延亮、村上宗玄、竹腰 顕、木村暁夫、犬塚 貴. プリオン病患者の医療連携に関する 10 年間の試み. 日本難病医療ネットワーク学会. 仙台, 2015/11/13.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし